

編集・発行 金目川水系流域ネットワーク世話人会

発行日 2008年4月1日

室川中流域の現況と秦野湧水群探索のご案内

日時 平成20年5月11日(日)
午前10時～午後3時
(雨天の場合は、5月18日(日)に順延)

集合場所 秦野駅南口右階段下「湧水マップ看板前」
集合時間 午前10時まで(時間厳守)

探索コース

秦野駅南口→荒井湧水の旧水利用施設→荒井湧水→
まいまいの泉→小藤川湧水→(震生湖入口交差点)→
震生湖(金目川流域外。押切川水系の藤沢川流域)→
白笹稲荷とその湧水→室川中流域観察(白笹橋付近)→
諏訪下湧水→向原湧水→今泉湧水池→秦野駅南口
(コース距離は全体で約6.7km、またこの地域には多数
の湧水及び自噴井などが存在している。)

(付近案内図)



(まいまいの泉)



(小藤川湧水)



(向原湧水)



(今泉湧水池)



○連絡先 野間紀之
Tel & Fax 0463-83-1094
E-mail n.noma@nifty.com
URL [http:// www.gamayama.com](http://www.gamayama.com)

開催報告 — 流域フォーラム2008

日時 平成20(2008)年2月3日(日)
午後1時～4時10分
場所 東海大学湘南校舎13号館201～204教室
テーマ 私たちにとって金目川とは?
～ いろいろな立場から金目川流域を語り、
その未来に期待する ～

主催者 金目川水系流域ネットワーク
NPO東海大学地域環境ネットワーク
東海大学大学院人間環境学研究科
神奈川県湘南地域県政総合センター

後援 平塚市、秦野市、伊勢原市

協力 神奈川県環境科学センター



(金目川ネット 佐々木園子代表のあいさつ)



(パネル展示をみる参加者)

パネル展示 (東海大学10号館前のSプラザ)

フォーラム開催に先立って、2月1日から3日までの3日間にわたって、県関係機関、流域3市及び流域で活動している各団体などから18点のパネル展示がされた。(参加団体数19団体)

ミニ講演会

- 当日は、午前中から降雪が続いている中で、金目川ネット 柳川三郎 の総合司会のもとに、地域の方々など127名の参加ではじまった。
- 冒頭、金目川ネットの佐々木代表のあいさつの後、以下に掲げる各分科会の検討、討論などに対する課題提起や各団体の紹介を兼ねて、下記に掲げるテーマで3名の方々からミニ講演(各講師 約10分程度)が行われた。
- テーマと講演者
 - ① 真夏の水温調査からみた循環型社会づくりへの課題 金目川ネット 野間紀之
 - ② 「川を身近に」～私たちにできること～ 東海大学大学院 内田晴久 教授
 - ③ 県民との協働による湘南里川づくり 県湘南地域県政総合センター 杉野信一郎 氏

分科会の活動報告

第1分科会 (13号館 202教室)

テーマ 真夏の水温調査からみた循環型社会づくりへの課題



(第1分科会の討論風景)

- 金目川ネット 西岡 哲の進行により約1時間にわたって 参加者による課題提起や討論などが行われ、戦後から高度経済成長期と現在にかけて、金目川流域がどのように変化し、その影響や改善などについての意見交換や、子どもたちが裸で川に入っていた時代の話とあわせ、「フリチンの詩」の紹介などが行われた。
- 時間の都合で、今後の展開などについての議論には至らなかったものの、参加者の多様な年代構成や、それぞれの暮らす地域の特徴などの発言の中から、今後の展開などの方向がみえてきたように感じられた。

第2分科会 (同 203 教室)

テーマ 「川を身近に」私たちにできること



(第2分科会の討論風景)

- 東海大学大学院生 新倉啓 氏の進行により上記と同様約 1 時間にわたって参加者による提案や活発な討論などが行われた。
- 多くの参加者から、テーマに関する意見や提案、またこれまでの経験などの披露、紹介があり、参加した同大学の学生の感想として、この「金目川流域に暮らす人々の意識の高さに驚いた。」と言われるほどの活発な意見交換が行われた。
- 今回、金目川ネットなどが主催する金目川流域フォーラムの新しい試みとして、東海大学の学生による分科会運営を試みたが、活発な意見交換など、この試みが成功であったと考えている。
(以上、文責は、野間紀之)

第3分科会 (同 204 教室)

テーマ 県民との協働による湘南里川づくり



(第3分科会の討論風景)

- 県湘南地域県政総合センター 青木久典 氏の進行により、上記と同様約 1 時間にわたって、地域住民が主体となった金目川水系の河川等の保全・活用を目指す「湘南里川づくり」の新たな仕組みについて、参加者による活発な意見交換が行われた
- 地域住民が主体となっていく際の課題や地域活動における行政との連携の必要性、今後の河川のあり方、河川管理・活用におけるビジョンの必要性などについて意見が出された。

(全体会議) パネルディスカッション (同 201 教室)

コーディネーター 東海大学 藤野裕弘 教授

パネラー 金目ネット 西岡 哲

NPO 東海大学地域ネットワーク

蕪木俊也 氏

東海大学大学院 瀧澤啓悟 氏

県湘南地域県政総合センター

安西省三 氏



(パネル・ディスカッションの会場風景)

- コーディネーターの藤野教授の進行により、それぞれの立場から各分科会の討論などの状況報告及びパネラーの意見や課題提起が行われ、また参加者からの活発な意見提案などが行われた。
- 特に、流域での環境保全などの取り組みの大切さなどが具体的に提起され、若いパネラーからの「環境に配慮した暮らし方」(ごみ分別の意識とその実践活動)の報告には、会場の多くの参加者から強い拍手がされたことなど、終了予定時間を超えての話し合いが活発に行われた。
- なお今回は、写真にみるとおり手話通訳が行われました。
(以上、文責 野間紀之)
- 最後に、県湘南地域県政総合センター 橋本謙一 所長のごあいさつがあり、初めての行政、大学などとの協働によるフォーラムが終了しました。

今回の流域フォーラムは、はじめて神奈川県(湘南地域県政総合センター)や東海大学・NPO東海大学地域環境ネットワークと協働し、また神奈川県環境科学センター並びに流域の平塚市、秦野市及び伊勢原市などのご協力をえて、金目川流域に暮らす人々同士が忌憚のない意見交換などを通じて、

「ひとつの地域を、いろいろな目でみることにより立体的にとらえ、私たちが連携し地域の課題に対応すること」

「どんなに些細なことであっても、まわりの異変に率直な目を向け、それを素直に話しあえる環境づくり」

などを目指して開催した。

ここでは紙面の都合もあり、全体会議で提起された「金目川流域で起きている課題やその改善に向けた提案」などの幾つかを中心として、討論の概要などを紹介する。

○このフォーラムは、民と官と大学の三位一体の議論で大変有意義であったと感じている。

「私たちにとって金目川とは」というテーマについてみれば、やはり、美しい川であってほしいと考えている。

この「私たち」の中に、生き物を含めて、生物たちにとっても楽しく、美しい川であってほしいと思う。ごみなどで川が汚れてしまったのは、これまで人間が使いすぎたためであり、今後は少し遠慮していかなければいけないのではないか。

○金目川は、6月中旬頃から水量が減少してしまうため、アユがこなくなり、それをねらっていたカワセミなども目にしなくなる。そういう意味で、川の水量の影響というものは大きく、川を寂しくさせることになる。

上流で、水源として水田などの利用にまわしている水を、少し遠慮して川に戻すべきではないか。そうすることによって、夏の川の水温低下や浄化などにもつながるのではないか。

○秦野でも生産性の問題もあり、田んぼもかなり減少して、農業人口も減っていると思われ、農業用水のために「川の水が減る」との指摘は疑問が残る。

昔は、かなりの農家があったにもかかわらず、川の水量は十分で、アユも釣れた。現在の川は単なる排水路と化して寂しい限りである。私たちは、もっと早い時期から新しい川との関わり方をみつけなければいけなかったのではないかと考えている。

○いまから30年ほど前は、金目川でよく遊んだ。

当時もそうであったが、第一次産業である農業は、川と表裏一体の関係にあり、そこから様々な文化も生まれてきた。

○金目川をみるとときには、源流部を含めて流域全体に目を向ける必要がある。

特に農業は、重要な役割を果たしてきており、今日の日本の風景が形づくられたのは農業があったからと考える。

農業用水なども、効率優先でパイプラインで水利用をするのではなく、自然の水循環ということを考えながら、その中で果たしてきた森の機能や畑、水田などの機能を理解した上で、お互いにどうしたら良いかを考えていく必要がある。

この「理解する」ということは、市民一人ひとりが、多少の不自由さを受け入れていかなければならないということになる。

それは結果として「自分の生活環境に跳ね返ってくる」が、我々にはなかなか目に見えないため、結局便利さに傾いた暮らし方となるが、今後はみんなで総合的に考えていくことが必要であると思う。

(以上は、神奈川県湘南地域県政総合センターがとりまとめた資料からの抜粋です。 文責 野間紀之)

○ご意見、ご感想、地域情報、入会希望などがございましたら下記までお寄せ下さい。

事務局 〒259-1201 平塚市南金目 722-2 事務局あてのご連絡は、下記あてをお願いします。

柳川 三郎 Tel&Fax 0463 (59) 2000 E-mail sm-y@dab.hi-ho.ne.jp

(毎月第2土曜日の午後1時30分より例会を開催しています。是非ご参加下さい。)

参加自由 開催場所 事務局会議室(東海大学 J館406室)